



「おかげさまで十周年」

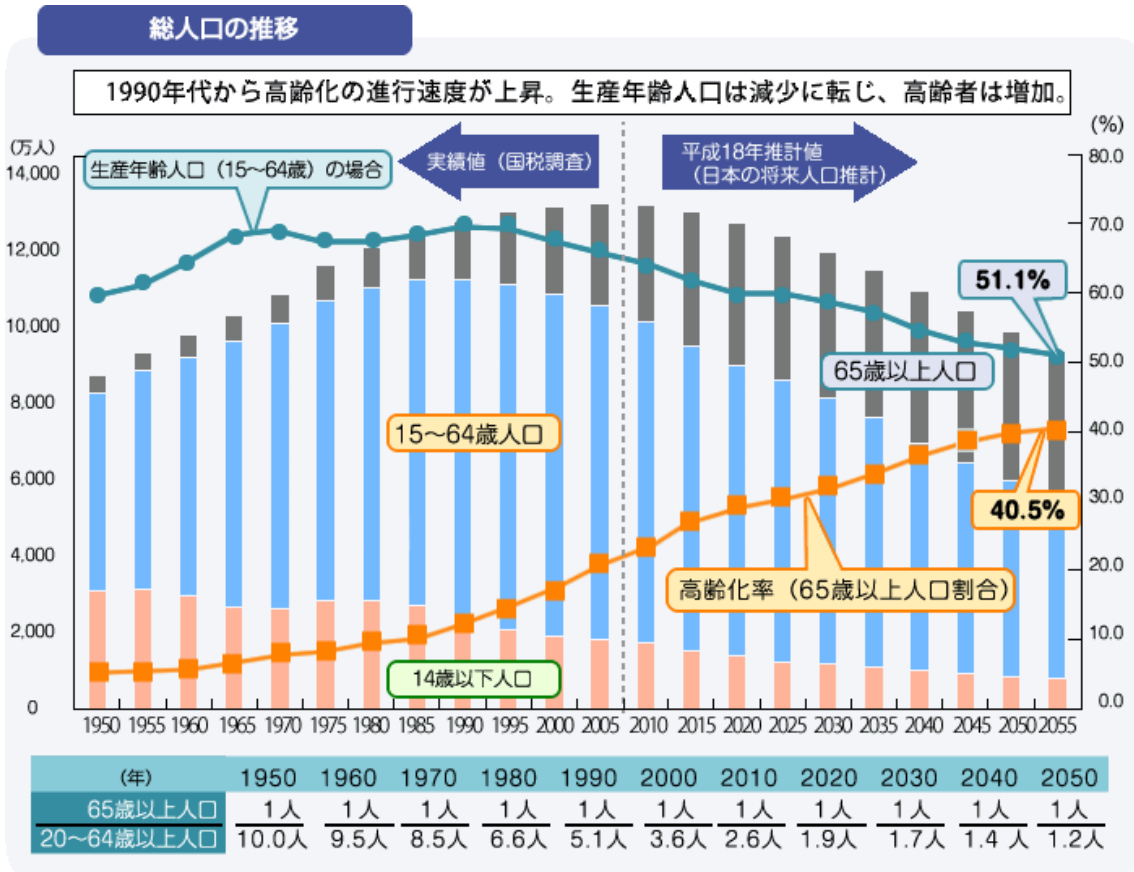
一か月のご無沙汰でした。不思議な気がします、あの二週連続の雪かきをして寒い思いをしたにもかかわらず、春はやってきます。近所の小学校の桜は五分咲きでした。これをお届けするころにはまさにお花見日和になっているのではないのでしょうか。なんだか気分まで明るくなるようです。

さて、本日をもって弊社は設立十周年を迎えることができました。2004年4月、株式会社リクルートを早期定年制度で卒業後、独立して会社を立ち上げました。喜びよりは不安のほうが大きかったかもしれません。いろんなことがありました。比較的順調にスタートを切りましたが、**2007年のリーマンショック、2011年の東日本大震災**では業績に大きな打撃を受けました。が、徐々に復興し、無事に10周年を迎えることができました。これも一重に皆様方のおかげです。深く、深く御礼を申し上げます。45歳で独立をしましたので私の年齢も55歳になってしまっ

おります。55歳、立派な**おぢさん**です。立派な大人になっていなければいけないのですが、どうも55歳という自覚もないし体格も変わっていない。体力は落ちているのを実感しています。テニス後の両足への疲労感がすぐには抜け切れなくなってしまっています。気持ちだけは若いつもりでおりますが、先週、車の中でJ-waveの「Tokio hot 100」を久しぶりにまともって聞きました。その週のベスト100曲を放送する番組ですが、50位以内の曲の8割は知らない歌手であったりバンドだったりしています。テレビの視聴傾向も固定しがちですし、いかん、これは立派なおじさんになっているのではないか。いかん、いかん、常に新しいものを取り入れる生活態度が失われているのかもしれない。いい気づきでした。これからも**公私ともに進取の精神**で当たることをお約束します。

と、ご挨拶が長くなってしまったのですが本題です。年金のことを考えるとあと10年は働かなければならないようです。以前のNewsLetterで「2030年、確定している未来」をお届けしました。2030年には、超超高齢化社会になっており、日本がどのような国になっていてそのための対策を考えてみました。この未来だけは変えようがないのです。

生産年齢人口を増やさなければなりません。移民の受け入れが必要です。事実、建設現場では深刻な人手不足が起きています。中国やアジアから研修生を受け入れています。抜本的な対策が必要です。女性の労働化も喫緊の課題です。待機児童ゼロなんていう小さな政策では追いつかないのです。

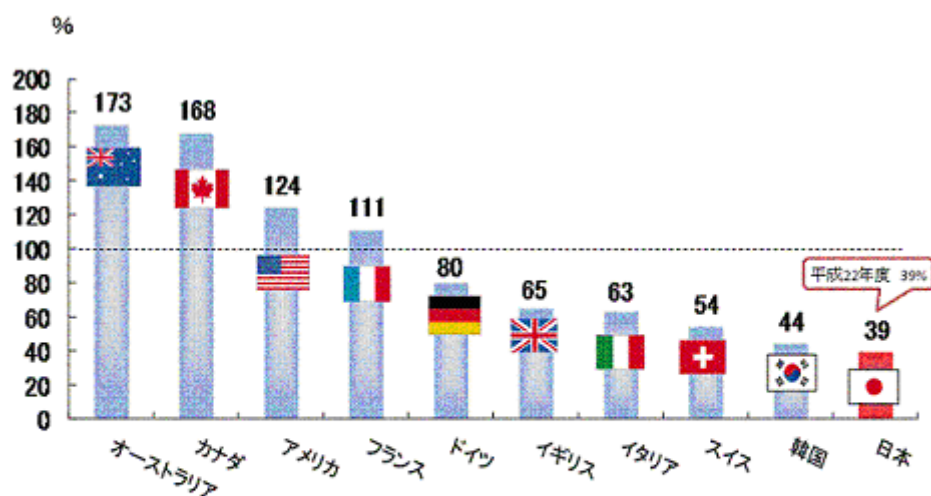


結論は、一言で言うと「**ダイナミックなキャリア移動が当たり前の社会**」にすることです。結婚をしようとしまいと、出産をしようとしまいと、子育てをしようとしまいと、キャリア上なんの差別を受けない社会です。今の政治はこれを目指しているといえるか。私には小手先の見栄えがいい政策しかしていないように見えます。

これが私の持つ2030年に対する危機意識です。2030年には私は71歳。元気であれば、企業戦士は若い人に任せて、地域・コミュニティの中で子育て支援をしたり、巡回パトロールなどを少ない報酬で引き受けていたいですね。孫の世話も任せなさい^^;

さて、この2030年問題ですが、決定的に欠けている視点があります。それは2030年に世界がどうなっているかです。日本だけのことを考えるという時代ではなくなっています。現在、人類の人口は70億人とされています。これが**2030年には85億人**、2050年には100億人を突破するといわれています(中位推計)。わずか16年間で15億人の人口増大です。日本と違って世界全体では人口が爆発的に伸びます。この増加分のほとんどは開発途上国です。先進国の増加はわずかです。ただでさえ食料や水や上下水やインフラ、衛生面などに劣る地域で起きるのです。地球が養うことができる人数は80億人分だといわれています。足りないですね。現在の食糧問題が起きている原因は実は「需要と供給」ではなく「**政治**」です。アフリカでは政変に続く戦

争などでまともに農業を行うこともできません。これらの政治が安定して、平和裏に農業ができるようになれば現在の食糧問題は解消するそうです。しかし、アラブの春で吹き荒れた風はすっかりおとなしくなるばかりか、旧弊に帰巢としています。日本にとっても深刻な問題です。

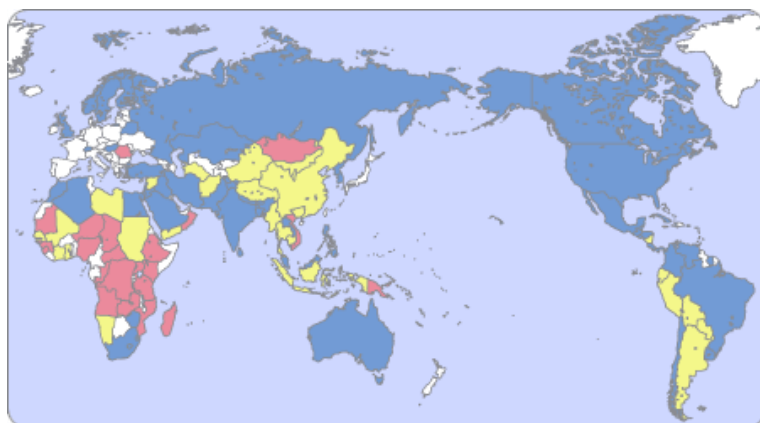


〈資料〉農林水産省「食料自給率」、FAO「Food Balance Sheets」等を基に農林水産省で試算した。〈アルコール類は含まない。〉
 ただし、スイスについてはスイス農林庁「農業年次報告書」、韓国については韓国農村経済研究院「食品自給率」による。
 (注) 1. 数値は、平成19年(ただし、日本は平成22年度)
 2. カロリーベースの食糧自給率は、総供給熱量に占める国産供給熱量の割合である。畜産物については、輸入飼料を考慮している。

資料：農林水産省／食糧自給率の部屋 より

なぜなら、日本の食糧自給率はわずかに 40%。6 割を輸入に頼っています。地球上のあらゆるところで食糧問題が起きたとしたらのはたして日本は今と同じ金額で食糧を売ってもらえるでしょうか。

もう一つ大きな問題があります。「水」です。日本に住んでいると「水不足」を感じることはありません。むしろ台風や雪による害のほうを強く感じます。しかし、地図で世界的にみると、

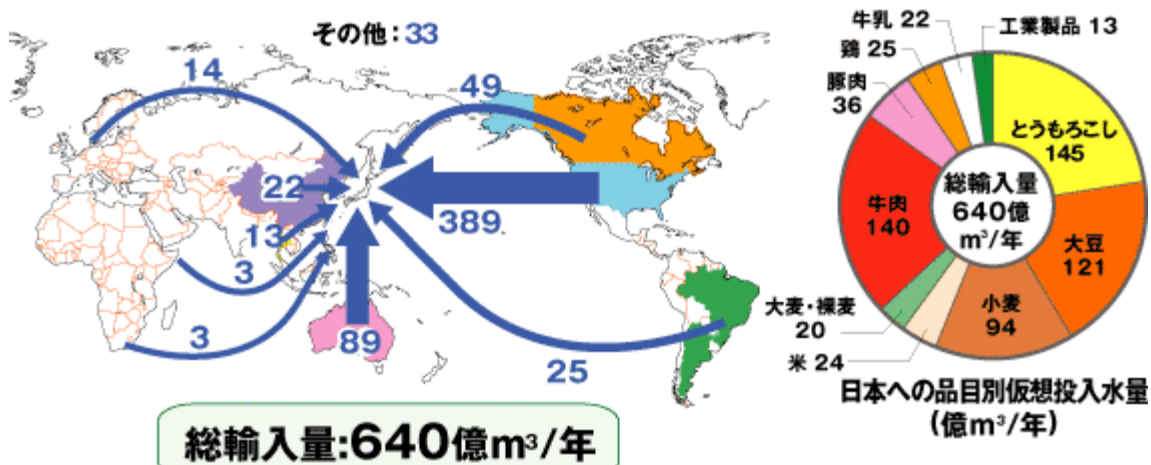


アジアやアフリカを中心とした国々では安全な水を確保することは非常に難しいのが現状です。お近くでは中国の水問題は人口が多いだけに深刻です。中国は今、環境問題と水問題において重大な局面を迎えています。

一般に小麦 1kg の生産に 400 ~ 2,000 リットル、肉 1kg に対し、1,000 ~ 20,000 リットル、1 人 1 日分の食事に必要とする水は、2,000 ~ 5,000 リットルに及ぶといわれています。高カロリー、タンパク質が豊富な食事は、野菜中心の食事と比較して多くの水を消費します。また、水の生産

性が低いサハラ以南のアフリカのような地域では、低カロリー、低栄養の食事しか得られない場合であっても、その生産に必要な水の量は大きくなってしまいます。また、肉類、乳製品、砂糖、油などを好むようになりますが、これらの生産には、概ね穀類よりも多くの水を消費します。大変に皮肉なことに地球は水の惑星といわれていますが、飲み水として利用できる水はどのくらいあるかという、わずか2%しかありません、しかもその大部分は南極や北極の氷。陸上生物が利用できる水はわずか0.01%。残りはすべて海水です。

もう一つ、それは地球温暖化に伴う異常気象です。先日のフィリピンの台風の被害は皆さんも鮮明に記憶にあると思います。温暖化と直接関係があるのかどうかは議論があるところではありますが、世界中で異常気象が多発しています。先日関東・甲信越に大きな被害を出した大雪。あれは発達した低気圧と例年よりも冷たい上空の空気がある条件のもとで起きた気象現象です。NYでは大雪、オーストラリアの干ばつは深刻さを増しています。それによって灌漑用水が十分に得られず、結果として穀物が取れなくなってしまいます。またその穀物を食べて大きくなる畜産業も深刻な打撃を受けます。次の図はバーチャル水の輸入量です。食糧の輸入は水の輸入です。



日本国内の年間かんがい用水使用量:570m³/年

ではどうするべきなのか。あまりにも問題が大きすぎて人間がコントロールできるものなのかどうか。原発事故以来、日本では温暖化のためのCO₂の議論がどこかへ飛んでしまいました。CO₂が地球温暖化のカギであることは定説となっています。まずはこの議論へ注目することが必要です。今、日本はすべての原子力発電所を止め、大量の化石燃料を燃やして電力を作っています。そこでは膨大なCO₂が発生しています。安全が確認された比較的新しい原子力発電所を稼働させ、足りない分は節電をしましょう。あの震災の時を思い出しましょう。駅や電車は蛍光灯を半分にし、我が家は二回、計画停電を味わいました。あの生活はちょっと困ったけれども、命をどうこう言うような話ではなかった。まず、日本から始めましょう。残された時間は少ない。

株式会社アール・リサーチ 代表 柳本信一

Tel 042-300-0533 mobile 090-7428-8999 mail : ryubon@kkd.biglobe.ne.jp